

越前焼はどのように見出され、 日本六古窯になったのかー

越前焼が現在の姿になるまでには、研究者・愛好家・作り手たちの貢献と努力がありました。約850年の歴史を現代につないだ、先人たちの熱きドラマを紹介します。

戦後まもない頃、「越前焼」の名称が誕生し、初めて発表されました。「日本六古窯」の名付け親である東京国立博物館(当時)の小山富士夫を越前古窯の窯跡に案内し、共に「越前焼」の名称を考えたとされているのが、のちに越前焼研究の第一人者となる水野九右衛門です。水野の献身的な努力によって、古越前は研究者や愛好家の間で着実に評判を高めていきました。本展では近代の越前焼、1960年代に展覧された古越前、写真資料などを通し、戦後における越前焼普及の軌跡を振り返ります。また、コラムとして戦後の民藝運動家や美術蒐集家、また県内出身の蒐集家・文筆家である秦秀雄など、近現代に越前焼を見出した人々を紹介します。

1967年、県内の窯元や福井県窯業試験場(当時)が中心となって越前焼振興会が結成されました。振興会や試験場は、陶芸家の辻晋六らを越前焼の指導者として招きます。窯元たちはデザイン指導を受けながら、越前焼の可能性を模索しました。本展では戦後越前焼の草創期を担った各窯元の作品や福井県窯業試験場の試作品を展示し、越前陶芸村設立までの流れを紹介します。

さらに、次世代の「ECHIZEN BRAND」を担う5名の越前焼伝統工芸士の作品を展示します。窯元や作家たちは、伝統を受け継ぎながら、それぞれの想いのもと新しい越前焼を生み出しています。越前焼の未来を照らす、魅力あふれる作品をお楽しみください。

●関連イベント

｜ギャラリートーク｜ 展示の見どころを解説します。

[日時]11/23(土・祝)、12/8(日)、1/12(日)

各日11時から1時間程度

[集合場所]福井県陶芸館2階資料館展示室

[聴講料]無料(ただし本展観覧券が必要です。)

[定員]15名

｜ワークショップ｜「水野コレクションに親しもう」

学芸員から越前焼研究の第1人者である水野九右衛門先生についてお話を聞き、水野先生が集めた越前焼の陶片や製品を見たり、触れたりします。越前焼の形をしたお菓子を食べながら、楽しく語らしましょう。

[日時]12/21(土)13:30~15:00 [定員]10名

[会場]越前古窯博物館 天心堂 [参加費]無料(ただし本展観覧券が必要です。)

※要事前予約:0778-32-3262



- ① 福島宏治《越前磐状文壺》(2019年)個人蔵
- ② 福井県窯業試験場《青なまこ番茶器セット(試作品)》(1967年)当館蔵
- ③ 勅使河原宏《自然釉花器》(昭和時代)一般財団法人草月会蔵
- ④ 越前窯《壺》《お歯黒壺》(鎌倉~江戸時代)当館蔵
- ⑤ 北野七左衛門《伊羅保釉水指》(1967年)個人蔵
- ⑥ 初代久世天聲《湯呑み》(大正時代)個人蔵
- ⑦ 辻勘之《土瓶蒸し》(1978年頃)福井県工業技術センター蔵
- ⑧ 氷坂窯《甕》《すり鉢》《碗》(明治時代)個人蔵



福井県陶芸館までのアクセス

●バス

ハビライン武生駅より福鉄バス(武生・越前海岸線より約30分)「かわいい崎行き」「陶芸村口」下車
※バスに関するお問い合わせ 福井鉄道株式会社(☎0778-21-0712)

●タクシー<丹南地域定額タクシー>

ハビライン武生駅、ハビライン鯖江駅、北陸新幹線越前たけふ駅から丹南地域定額タクシー(料金:片道1,000円)がご利用いただけます。
※詳しくは、越前町HP、または越前町商工観光課(☎0778-34-8720)までお問い合わせください。

●高速道路

武生IC(京都・名古屋方面)・鯖江IC(金沢方面)より約30分
※駐車場は、越前陶芸村総合駐車場をご利用ください。

ご予約・お問い合わせ

福井県陶芸館
FUKUI PREFECTURAL MUSEUM OF CERAMICS

〒916-0273 福井県丹生郡越前町小曾原120-61
TEL:0778-32-3262

<https://www.tougeikan.jp/>